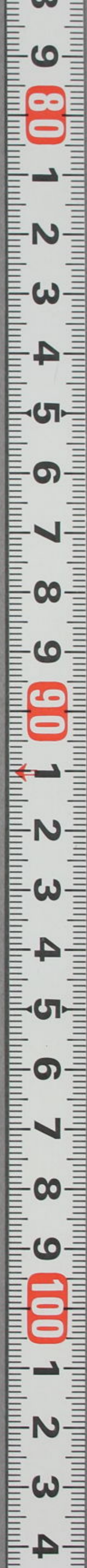


ル 2
3403
1





怪力亂神者 夫子語誨之
 而謂召弟子 語之 周禮
 者樂語戴記 有合語是也
 四者非先王之典而尚故
 不以為語也 世儒謂不談
 此四者 聖人何殊為人乎
 曰閑談何嘗不一及茲乎
 四者之一怪之為言又大也

聖物圖考

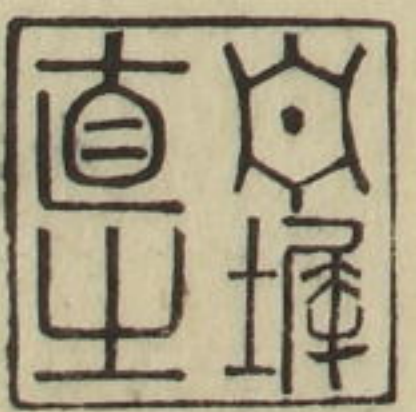
卷

一

凡寰區中為怪者多闕於
山川之奇怪多漫溷海之
外稱怪異者不可悉識
是以禹鼎山海以來擇
圖畫者亦罕也予友滕元良
今因著產物圖考碎事之
精奇而怪可借括括之勞
切儆不細矣向來而咨謝

扣予乃不辭一因而為之
序謂其志焉
寬政丁巳季春

箕山 熊尚之識



和蘭産物圖考序



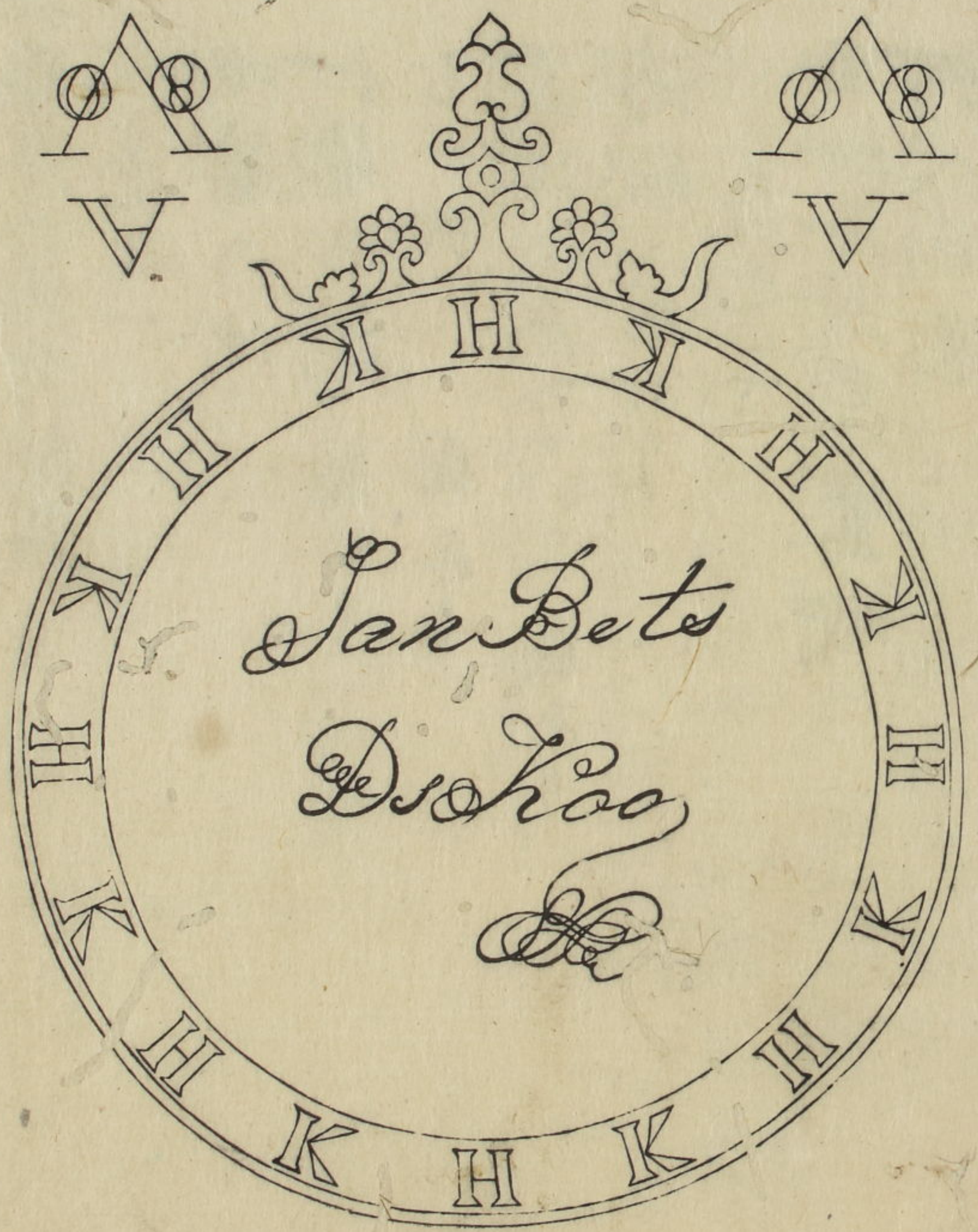
安海の市隱子めを 此たるまのくし濃
 おき詠し 夕舟舟のりり 舟をそとふかきた
 清氏此子紙子志るまは四神藩屋の
 紫宮の内なる清涼殿より此皇城は平安京より
 今時堯仁舜徳の代子比し 女小解此布り
 思ふ餘乃粟安季國系殿人に富て下あふ人
 故子耳落庭小春は清泉涌出此は京のあり

以婦——予近嘗聞京北水產之富以著其地也
 果邦之觀者其於産物圖考此一箇形之人心
 以之——以此書之叙也

寛政九年庚申生

後下

秋里竹離



和蘭産物圖考總目

卷之一

嚼蘭の地

和蘭の猿 圖あり

じヤ虫 圖あり

黒坊のあないち 圖あり

海船 圖あり

卷之二

亞細亞洲巴必鸞鳥城

銅人巨像

利未亞洲厄日多国孟斐文府尖形高臺

亞細亞洲嘉各省茅索祿王瑩墓

亞細亞洲厄佛俗府供月祠廟 圖あり

歐邏巴洲亞嘉省供木星人形

法羅海島高臺 圖あり

以上七奇

意大利亞國羅瑪府公樂場

歐邏巴洲畧記

波示杜瓦爾畧記

意大利亞國溫泉 圖あり

意大理亞國邏城

卷之三

冬至日短

圖あり

四元行

巨鳥異獸

石人

人異

圖あり

把雜爾

獨角獸

小自鳴鐘

聾石小嶋無根因風移圖あり

亞既刺

驟能傳種

亞爾加里亞

無核果

樹膏

鳥卵

懶面

卷之四

長人

圖あり

異雞 いけい 圖あり

無對鳥 むたいちう

鼻角 ひかく 圖あり

乳羊 ちやう

般第狗 ぱんていこ

大懶毒辣 たいなんどくらつ

獲北落 くわくほくらく

撒刺漫天辣 ささくまんてんらつ

狸猴獸 りこうじゆう

意夜納 いやな

蘓 そ

長吻鵲 ちやうくわんじやく

無目地 むもくぢ

駱駝鳥 らくたあし

不二鳥 ふにちう

卷之五

把勒亞 ぱらくあ

薄里波 はくりぱ

劍魚 けんぎよ

落斯馬 らくしま

飛魚 ひぎよ 圖あり

斯得白 しとくはく

仁魚 にぎよ

刺瓦而多 さくわらなると

麻魚 まぎよ

風魚 ふうぎよ

海蝦蟆 圖あり

海雷

圖あり

大船魚 蛤

海馬

海鳥

蟹人の首を箱

海産

終



和蘭産物圖考卷之一

勢州 藤元良 校補

○ 啗蘭之地

和蘭本少海の小島の名なり、中々ハ入示馬泥亞也始、其人海上小徑、ヤ、魚獲捕り、と業とす、軍にたり、て、本國用之、一、由、小海外、通市、す、俗、素より、智、く、あ、く、天、文、地、理、の、事、小、通、一、経、歴、は、る、不、地、及、山、川、の、を、近、之、地、の

風俗物産之志ありし市舶往還之所ハ
 東南三百餘國ニ申設場設番者三十余所也
 之中國の地乃幅員四日程に及す其人皆長
 大にして赤髮高鼻遠首藍睛黧面あり婦
 女ハ髪を束て簪する小珠玉戴い其醫者
 小精微舟と走て飛ぐごとく岸小少して疾行こと
 何と云 日本より海上を萬二千九百里西北
 の方に當り毎年長崎小入津花咬啣吧と五月の
 中節以後出船し七月に初節長崎小入津花
 八九月の間荷物高賣りし九月十日定て歸航

是の時去年来船せしカビタニ和蘭當年年来船
 カビタニ代りて歸国す當年年来船カビタニハ長崎
 小通田し其春江戸を勤ゆ也

○ 猿

和蘭山中に猿あり其如ち猴小似て臂ありく
 首ハ程のごとし其木の枝と攀手就る其子とほ
 うゝてされく其時ハ親猿もへうなみ親
 猿もさげし其福しむる所ハ其猿教百
 ちもせず其先其親猿としかりて
 就るの足にえつけ其教百の猿もひしく小翅小蟻の

尻しりを洗あ近ちかころ京師きやうしの某氏たがひ奇物きぶつを好癖このくせありき
 一日いちにち政客せいかくを尺貫しゃくくわん愈なほする小和蘭せわらんの器物きぶつなること
 け墨坊すみぼうれ尻しりりい酒さけを入いて出でせり一ひと座ざを柏かしわ
 掌てのひらて奇珍きしんといふ一人ひとり甚た不具ふぐしてよろこびすけ器きハ
 きて不潔ふけつのもれ也なりといふ主人しゆじんれいふ赤面せつめんていふハ
 け器きハ拙者せつしや年とし末すえ珍藏ちんざうして不潔ふけつなるものありけ
 いかしてさよのりといひ給たまや容ゆる目めおハ敷しりえんけ器き
 ハ墨坊すみぼういりもりの尻しりを洗あもの也なりといふハ一ひと座ざ大おほあ
 されとてきりまうけ人ひと奇物きぶつを好癖このくせを止やめられたり
 かしやく

親見とるて図す



ジャ
虫
圖



○海船

西洋海船百種小とまますは旅約するふ二三等あり
 リ。その小なる船は二、三、四、五人と容べり。た書信
 と傳ふ。所用の物一切のもれ。たとの。舟の腹を
 虚上より下にたて。一穴をぬき。四圍點み。も
 る事なり。漲ちおる。ともつて。あす。風濤おれ。や
 む。おる。こと。おる。もの。は。こと。おる。舟。は。腹。お。入。て。お。孔。を
 密閉。する。小。瀝。青。紙。は。お。を。し。て。い。ら。ざ。ら。む
 操舟者。は。お。と。櫓。挽。小。縛。つ。け。お。お。ま。う。お。ら。く
 飄。揚。す。て。お。腹。空。虚。な。れ。は。お。が。沉。溺。こ。と。お。



船の底に石を以て法とて亦翻覆のふれいたす
浪の平なる故すつて舟人傷を解萬一も失は
一日お千里を行へ中なるもの、数百人を定むべし
小西洋より廣東に達する時、はけ船を用ゆを大
なる者上下八層、高約八丈、最下の一層は沙石を
流すや、なすにせられも、起る千餘石船を、く傾側
さし、石二三層、は、食羽のもの、代の守、海
浪を、得こや、あか、し、よ、つて、千餘のた、さ、る
桶を、装、く、千人一年の用を、達、て、又一層、八、中
下の人、こ、お、居、ま、或、は、細、軟、なる、もの、切、お、入、羽、を

るものを、装、れ、平、板、舟、邊、を、れ、お、百、丈、帆、を、揚、み、氏
薩、を、な、し、遊、戲、の、地、前後、名、を、達、又、四、層、は
貴、首、す、なる、もの、居、ま、る、お、と、お、中、お、兩、道、り、て、頭
尾、お、通、す、べし、尾、お、水、圖、を、建、く、納、涼、地、場、と、な、れ
船、の、兩、傍、お、大、流、数、十、門、を、列、を、鐵、彈、の、重、さ、三
十、餘、斤、り、り、上、下、前後、風、帆、十、餘、道、あり、桅、の、大、者
二十、丈、周、一、丈、二、尺、帆、の、廣、さ、八、丈、約、さ、る、お、白、布、外
千、四、百、丈、お、お、鐵、櫓、と、な、す、お、さ、る、お、千、三、百、五、十、餘
斤、也、お、纜、繩、の、周、二、尺、五、寸、重、さ、一、萬、四、千、三、百、餘、斤
水、手、二、三、百、人、將、率、銃、士、三、四、百、人、高、人、數、百、船、の



總官貴官一員あり是西国王の命する也一
 船の事主たる賞四封生殺乃杖あり又船師三
 人あり上天文通下地理通二士の船師は
 候風と主とく風波辨し時と去の帆帆をばい
 器用とく之號頭とて人と指割しはひみの
 深礁石探りて候と趨避ことを定むの
 後也天文通する士も天文をくくいてるを
 を主とく星の日を測り星を測海の圖を用
 て度数を量りて海路は遠易を去るの役也又
 宦醫ありて一船の疾病を主り市醫ありて食物

諸色を貿易也大船風浪と心もく揚山礁あ
 ざた下の砂或は火をばりる船上火を禁する
 極嚴也千人の命け一事小かす故也す風を候
 候く日時を選ますすいすくく大失ある事
 見すも船が少くして固く走とさ大船先少く
 海路を測り船の尾小構あり夜は燈籠を照して照
 しやう一燈籠の周二丈四尺高さ一丈二尺高さ
 也海をゆくも昼夜傳ふるもの山崎記へある
 のあまは山崎をくく大洋中もくく島里山
 名なる記とさハ羅經を用て日月星を計天氣

を考^{かん}方^{かた}を審^{つまひ}ふす方を審^{つまひ}りてその法^{ほう}全^{ぜん}く海^{うみ}圖^ず
の^り度^ど教^{けう}を量^{りょう}取^とり船^{ふね}の行^{ゆく}路^ろ其^{その}の^り所^{ところ}す
乃^{すなは}ち^ち處^{ところ}ふ^らひ^ひ少^{すく}く^く出^で幸^{さい}と^と指^さす^すこ^こわ^わり^り

和蘭產物圖考卷之一終

